

奈麻余美乃 なまよみの なまよみの (枕詞)	甲斐乃國 甲斐の國 かひのくに 甲斐の國と	打縁流 打ち寄する うちよする (枕詞)	駿河能國与 駿河の國と するがのくにと 駿河の國と	己知其智乃 こちごちの こちごちの あちこちの	國之三中従 國のみ中ゆ くにのみなかゆ 国の真ん中から
出立有 出で立てる いでたてる そびえたつ	不盡能高嶺者 不盡の高嶺は ふじのたかねは 富士の高嶺は	天雲毛 天雲も あまくもも 天雲も	伊去波伐加利 い行きはばかり いいきはばかり 行きはばかり	飛鳥母 飛ぶ鳥も とぶとりも 飛ぶ鳥も	翔毛不上 飛びも上がらず とびもあがらず 飛び上がらず
燎火乎 燃ゆる火を もゆるひを 燃える火を	雪以滅 雪もち消ち ゆきもちけち 雪で消し	落雪乎 降る雪を ふるゆきを 降る雪を	火用消通都 火もち消ちつつ ひもちけちつつ 火で消しつつも	言不得 言ひも得ず いひもえず 何も言えず	名不知 名付けも知らず なつけもしらず 名づけもできず
靈母 靈しくも くすしくも くすしくも	座神香聞 座す神かも いますかみかも おわす神かも	石花海跡 石花海と せのうみと 石花海と	名付而有毛 名付けてあるも なづけてあるも 名づけた海も	彼山之 その山の そのやまの その山が	堤有海曾 つつめる海ぞ つつめるうみぞ 囲んだ海だぞ
不盡河跡 不盡河と ふじがはと 富士川という	人乃渡毛 人の渡るも ひとのわたるも 人の渡る川も	其山之 その山の そのやまの その山の	水乃當焉 水の激ちぞ みずのたぎちぞ 水の流れだぞ	日本之 日の本の ひのもとの 日の本の	山跡國乃 山跡の國の やまとのくにの 大和の国の
鎮十方 鎮めとも しずめとも 鎮めとして	座祇可間 います神かも いますかみかも おわす神だぞ	寶十方 寶とも たからとも 宝とも	成有山可間 なれる山かも なれるやまかも なれる山だぞ	駿河有 駿河なる するがなる 駿河なる	不盡能高峯者 不盡の高峯は ふじのたかねは 富士の高嶺は
雖見不飽香聞 見れど飽かぬかも みれどあかぬかも いくら見ても見飽きることがない					万葉集 卷三 319 高橋虫麿
https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/					